

3. 活動内容

(1) はじめに

幼稚園における就学前教育としての遊びを通して行う活動の中に、持続可能な社会を形成する担い手を育てることを目指し、毎年、持続発展教育を念頭においた、「国際理解」「世界遺産学習」「環境教育」「食育」に年間通して取り組んできています。また日々の活動と共に、本年度はアシストプロジェクトを活用させていただき、世界遺産学習に重点をおいて活動を行いました。

(2) 1年間の主な活動内容

① 「国際理解」：日本の伝統文化に触れることから世界の文化に気付く

- ・「剣道教室」を3回実施（6月・9月・10月）

竹刀を持って、剣道の礼儀や挨拶を知る中で、けじめをつけること、心を落ち着かせることなどに気付く機会になっています。年長5歳児になると、姿勢を正し、話を聞く態度が身に付きました。「礼に始まり、礼に終わる」ことで日本の文化を知ることもできています。

- ・「茶道教室」年3回（5月・11月・1月）

初夏・秋・初釜（親子茶道）と季節に応じた環境を整えることで、春夏秋冬のある日本を知り、茶道の作法の中から相手を気遣い、互いに心を寄せ合うことに気付かせてきています。



② 「世界遺産学習」：菜種油の奉納（11月25日）

様々な活動の中で、感動体験を深めることを考え、世界遺産学習における「大好き奈良」として、自分たちが生活している「奈良」を大好きになってもらいたいと考えました。

- ・「菜の花の種を蒔く」→「菜の花を刈り取る」
→「菜の花の乾燥を行う」→「菜種油絞り」
→「菜種油で灯がともる」ことを経験したことで、子どもたちと「この菜種油の明かりを、大仏殿にいる大仏さまにも届けたい。」と話し合いました。



- ・また、世界遺産カルタや絵本「ならの大仏さま」での保育活動を通して、どうして大仏さまは作られたのかを知り、大好きな奈良に大仏さまがなぜおられるのかと考えるきっかけになりました。



- ・奈良国立博物館の方に『どうして大仏さまは作られたか』について聞き、聖武天皇さまの大仏への思い、大仏さまは多くの人たちの力で作ることができたこと、大仏さまは二度も焼かれたこと、大仏さまの鼻の穴は6つあることなどを聞きました。



- ・子どもたちは大仏殿での菜種油の奉納を行うことで、大仏さまをより身近に感じ、大仏さまがどうしてできたのかが、少し理解できたのではないかと思います。それは、奉納後の活動の中で、大仏さまや大仏殿への興味・関心が深まった様子にも見られました。



③ 「環境教育」：森林の役割 （12月16日）

- ・森林（植物）の役割と呼吸や地球温暖化の仕組み・木材の流通などを、組み合わせた話を聞いて、森林の大切さを学ぶことができました。木材は、様々な種類の木を触ったり、木々の匂いを嗅いだりしました。



（実施団体：NPO 法人宙塾にお願いして）

④ 「食育」：栽培活動・しっかり食べて元気に遊ぼう

- ・「小麦の栽培」種まき・麦踏み・収穫 （5月・6月・11月・1月）

5月に小麦の収穫をしました。6月にはその小麦を石臼で挽いて粉をつくり、ホットケーキを作って誕生会で食べました。

また11月に小麦の種を蒔き、1月には麦踏みもしました。また、来年度に向けて植物は循環していることを知りました。



- ・「夏野菜・冬野菜 等」苗植え・水やり・収穫 （6月・12月）

いろいろな夏野菜（キュウリ・ピーマン・とうもろこし等）を植え、毎日世話をし、できた野菜を食べました。

12月には収穫した野菜の大根やサツマイモ等は収穫パーティーとして、みんなで豊作を祝って食べることができました。また、カレーやさつま汁の他の食材は近くのスーパーへ5歳児が買い物に行き、自分たちで必要な食材を買う経験もしました。



- ・「米」田植え・収穫 （7月・11月）

年長5歳児は、各自で苗を植え、年少4歳児はクラスで田んぼを作り、米を育てました。収穫した米はビンやボールを使って精米してから炊き、おにぎりを作って、お昼のお弁当としました。

(3) 今年度のまとめ

国際理解のきっかけとして、まず日本の伝統文化を知ろうとする中で、剣道教室や茶道教室から、自らの体を操り、教室で活動を取り組むことで、今は何をなすべきかをわかって動けるような子どもたちになってきています。挨拶や礼儀、自分の体で経験して得たものがあるように思われます。次にはそれを自ら発信できるような子どもたちになってほしいと思います。

子どもたちは、自分たちで作った菜種油を大仏殿に届けることで、大仏さまの役に立っていることを喜び、より親しみを持つことになりました。また、国立博物館やお坊さまにお話を聞くことで、奈良にある大仏さまが長い間大事にされていることを知り、自分たちも同じように大切にしていこうと思うきっかけになったといえます。この菜種油の奉納は世界遺産に親しみ、大仏さまとのつながりを感じられる活動になったのではないかと考えます。

環境教育については、実施団体の方からお話を伺うことが主でしたが、自分たちでも森林の役割と同じように、何かを始めていかなければいけないのではと感じていたようです。

食育は、日々の保育活動そのもので、身近にある環境を生かして実践できているからこそ、野菜を育て、収穫し、食べるところまで行うことで、植物の循環や環境について知ったり、社会とのつながりも少し気付いてきたりしたのではないかと思います。

来年度も、続けてきている実践をもう少し深まるようにし、さまざまな体験を通して、自ら考え、自分でやろうと思う子どもを目指していきたいと思います。

(2) 活動時間について（下記から選択して下さい。）

- 通常の授業時間を使用（総合的な学習の時間を含む）
- 時間外活動の時間を使用
- ユネスコクラブの活動として実施
- その他（

）